

医療安全トピックス TOPICS

Vol.103

井上 純子

公益財団法人日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部 医療安全課 課長

他施設や在宅で使用していた 人工呼吸器の持ち込みに関連した事例について

公益財団法人日本医療機能評価機構では、医療事故情報収集等事業（以下：本事業）を行っています。本事業では、医療安全推進のため四半期ごとに報告書を作成し公表しています。報告書では、報告された事例からテーマを設定し、事例の分析を行っています。

本稿では、2019年3月に公表した第56回報告書の分析テーマで取り上げた、「他施設や在宅で使用していた医療機器等の持ち込みに関連した事例」について紹介します。

厚生労働省では、地域包括ケアシステムの実現のため、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域での包括的な支援・サービス提供体制の構築を推進しており、人

工呼吸器などさまざまな医療機器を使用している患者が自宅などで療養することが多くなりました。そのため、在宅などで療養している患者が、レスパイト目的などで短期入院をすることもあり、院内で扱っていない医療機器が持ち込まれることがあります。

このような状況の中で、使い慣れていない医療機器等の知識や経験が不足していたことにより発生した医療事故情報が本事業に報告されています。

そこで、2018年7～12月にヒヤリ・ハット事例の今期のテーマに設定して事例を収集し、医療事故情報と合わせて分析を行いました。

●報告された医療機器等

報告された事例に関する医療機器等を分類したところ、人工呼吸器の事例が最も多く報告されました（図表1）。

そこで、第56回報告書では、人工呼吸器に関連した事例を取り上げて詳しく分析しました。

●人工呼吸器の事例の分類

人工呼吸器の事例を記載された内容から分類したところ、呼吸回路に関する事例や、酸素供給に関する事例が報告されていました（図表2）。

第56回報告書には、それらの主な事例を掲載しました。

【図表1】 報告された医療機器等

医療機器等	件数		
	医療事故情報	ヒヤリ・ハット事例	合計
人工呼吸器	11	7	18
皮下用ポートおよびカテーテル	3	0	3
胃瘻栄養用チューブ	2	0	2
気管切開チューブ	1	0	1
経皮経食道胃管	1	0	1
合計	18	7	25